

### 〔Ⅲ〕 昭和28年度 終末テスト

ローマ字教育実験学級，昭和28年度終末テストは第3年度の学習指導が終了した後に実施するもので，〔Ⅰ〕ABC順，〔Ⅱ〕さしずに従って書く，〔Ⅲ〕黙読(質問を含む)，〔Ⅳ〕書くこと，〔Ⅴ〕他の式のローマ字文(音読)の5種類を2日間にわたって行うものである。その要領は下記のとおりである。

	種 類	問 題	用 紙	時 間	採 点
第1日	〔Ⅰ〕 ABC順	文部省で作成	文部省で印刷・配布	7分	文部省で行う
	〔Ⅱ〕 さしずに従って書く	〃	〃	10分	〃
	〔Ⅲ〕 黙 読	〃	〃	問題3分 質問2分	〃
	〔Ⅳ〕 書くこと	〃	〃	4分	〃
第2日	〔Ⅴ〕 他の式のローマ字文(1), (2)	〃	〃	(1), (2)各2分	〃

第1日には，〔Ⅰ〕ABC順，〔Ⅱ〕さしずに従って書く，〔Ⅲ〕黙読，〔Ⅳ〕書くこと の4種類をこの順序で続けて実施する。ただし，各種類の問題用紙を1度に配るのでなく，一つのテストがすんで，その答案を集め終ってから，その次の問題用紙を配るようにする。

第2日(間に日をおかないようにする。なるべく第1日の翌日。)には，「〔Ⅴ〕他の式のローマ字文(音読)」だけを実施する。このテストはひとりひとりについて実施するものであるから相当の時間を要する。(詳しくは後述する。)

テストを終わってから

(省略)

〔各種類の問題の実施方法〕

第 1 日

〔Ⅰ〕 ABC順

1 児童に対する注意

- (1) 問題用紙を裏向きに配りますから、「始め。」というまで問題を読んではいけません。
- (2) 「始め。」と言ったら、紙を表にして、問題をよく読んで、質問に答えるのです。やり方は説明しませんが、紙に書いてありますから、よく読んでそのとおりにするのです。問題は2題ありますが、どちらからさきにやってもかまいません。
- (3) 名まえの所はあとで書きます。

## 2 実施

- (1) 「始め。」(いっせいに始めさせる。)
- (2) (7分たったら,)「やめ。」(いっせいにやめさせる。)(この時間はあらかじめ児童には知らせない。)
- (3) 名まえの欄に必要事項を記入させる。男女別はそれぞれの文字を○でかこませる。
- (4) 集めて番号順にとじる。

## 〔Ⅱ〕 さしずに従って書く

### 1 児童に対する注意

- (1) 問題用紙を裏向きに配りますから、「始め。」というまで問題を読んではいけません。
- (2) 「始め。」と言ったら、紙を表にして、問題をよく読んで、質問に答えるのです。やり方は説明しませんが、紙に書いてありますから、よく読んでそのとおりにするのです。問題は3題ありますが、どれからさきにやってもよいから、できると思うものから始めてください。
- (3) 名まえの所はあとで書きます。

## 2 実施

〔Ⅰ〕に同じ。(ただし、時間は10分。)

## 〔Ⅲ〕 黙読

### 1 準備

- (1) テスト実施前に、問題用紙(2枚)を必要部数だけ順序に

とじておく。(質問の用紙をいっしょにとじないように注意すること。)

問題用紙をとじるときは、半分に折らないで、そのまま重ねて紙の左肩をとじる。

- (2) 今回の黙読の問題も、前年度の終末テストと同様に特に長い文を選んだのであるから、だれもが所定の時間(もちろん、この時間は、児童にあらかじめ知らせない。)に読み通せないであろうことを予想しているのであるから、自分の読めるだけの速さで、読めるところまで読めばよいことを、よく児童に納得させるようにしていただきたい。

## 2 児童に対する注意

- (1) これから紙を配ります、紙は2枚とじたのと、1枚のとあります。はじめに1枚のを裏向きに配り、次にとじたほうの紙を裏向きにして配ります。どちらもあけて読むではいけません。
- (2) 「始め。」と言ったら、とじたほうの紙をあけて文を読んでください。長い文なので全部は読めないでしょうが、読みきれなくてもかまいませんから、落ついてどんどん読んでいってください。
- (3) あとで質問に答えてもらいますから、そのつもりで読んでください。(1枚の紙のほうは、もう1度、「始め。」というまであけてはいけません。)
- (4) 「やめ。」と言ったら、読み終わったところに、赤鉛筆で「J」印(黒板に書いて示す。)をはっきりとつけてください。(所定の時間は、3分であるが、あらかじめ児童に知らせない。)
- (5) 「J」印をつけ終わったら、また紙を裏向きにして、机の上に置いて、そのまま待っていてください。(もう1枚の紙をあけて読んだりしてはいけません。)
- (6) 名まえのところはあとで書きます。

- (7) 次にもう1枚の紙のほうの説明をします。この紙は質問です。
- (8) 「始め。」と言ったら、紙をあけて質問に答えてください。やり方は紙に書いてありますから、それをよく読んでそのとおりにやってください。
- (9) 「やめ。」と言ったら、すぐにやめてください。(所定の時間は、2分であるが、あらかじめ児童には知らせない。)
- (10) 名まえのところはあとで書きます。

### 3 実施

- (1) 「始め。」とじた紙のほうをあけて読みなさい。
- (2) (3分たったら,) 「やめ。」印を忘れないようにつけなさい。
- (3) 印をつけたら、問題の紙を裏向きにして、机の端に置きなさい。まだ質問のほうの紙をあけてはいけません。
- (4) (全児童がすんだのを見届けてから,) 今度は質問のほうをやるのです。「始め。」質問のほうを始めてください。
- (5) (2分たったら,) 「やめ。」(いっせいにやめさせる。)
- (6) 問題の紙にも、質問の紙にも名まえの所を書きなさい。両方とも書き終わったら、別々に裏向きに机の上に置いて置いてください。
- (7) 問題・質問別に集めて、番号順にとじる。

## 〔IV〕書くこと

### 1 児童に対する注意

- (1) 問題用紙を裏向きに配りますから、「始め。」と言うまで問題を読んではいけません。
- (2) 問題は、ローマ字文の途中に「かな」で書いてあるところがありますから、そこへローマ字で書きこむのです。

たとこば

Asita wa わたしたちの tanosii

えんそく desu.

という問題だとすると、

Asita wa わたしたちの  
watasitati no tanosii

えんそく  
ensoku desu.

のように書くのです。(実際に  の中へ書き込んで説明する。)

(この例は、実際に板書して説明し、用紙を配るまえに消しておくこと。)

(3)  の中に書くときには、わかち書きにも注意して書いてください。

(4) 「始め。」と言ったらすぐに始めてください。  
名まえのところはあとで書きます。

(5) 「やめ。」と言ったらすぐにやめてください。

(所定の時間は4分であるが、あらかじめ児童に知らせない。)

## 2 実 施

[1]に同じ。(ただし、時間は4分。)

### 第 2 日

#### [V] 他の式のローマ字文 (音読)

##### 1 準 備

(1) テストは児童ひとりひとりについて実施するので、テストをする室のとなりに児童の控え室を設ける。

- (2) 控え室にはなるべく助手を置き、テスト実施中児童が騒がないように注意する。
- (3) テストは、担当教官が自ら行うことをたてまえとするが、在籍児童が多い場合などは、他の教師の協力を得ることもやむを得ない。また、時間を正確に測定するなどのために、実施にあたっては助手をつかうことが望ましい。
- (4) テストのすんだ児童は、控え室に入れない。
- (5) テスト用紙（児童に読ませる分。）は、各児童とも同一のものを使用する。この問題用紙は厚紙で裏打ちをし、(1)、(2)を切り離す。裏面にはっきりと(1)、(2)の番号を書いておき、(1)、(2)を別々に実施する。まず、(1)について2分間音読させ、教師が「」印をつけ終わってから、また「始め。」で(2)を2分間読ませる。（用紙を半分に切るのは児童に読ませるものだけで、教師が記入する分は切ってはならない。）

## 2 児童に対する注意

- (1) 今度の問題は、ひとりずつ別の室で、ローマ字の文を先生に聞えるくらいの中を出して読んでもらうのですから、この室にいる人は騒がないでください。
- (2) 問題の紙は机の上に裏向きにして置いてありますから、「始め。」と言ったら、紙をあけて読み始めるのです。  
問題は2題ありますが、1題ずつ別々にやるのです。
- (3) はじめに「始め。」と言ったら、(1)と書いてあるほうの紙を裏返して、「やめ。」と言うまで中を出して読んでください。次にまた「始め。」と言ったら、(2)の紙を読むのです。
- (4) しばらく考えても読めないことばは、抜かしてそのさきを読んでください。

## 3 教師に対する注意

- (1) 実施の際、テストを受ける児童の番号・姓名を名まえの欄

に記入する。

- (2) 2 にしるした要領で児童に音読させ、読みの態度を観察しながら、「やめ。」と言ったとき、〔所定の時間(2分)以内に読み終わったものについては後述する。〕読めた箇所にはっきりと「J」印をつける。
- (3) 児童が読めなかった語などについて、
- しばらく考えても読めないことば、そのことばを ( ) で囲む。
  - つかえはしたが、読むことができたことば、そのことばの上に V 印をつける。
  - 読みちがえたまま訂正しなかったことば、そのことばの下に —— 線をつける。  
(読み違えても、すぐに自発的に正しく読みなおしたものは何も印をつけない。)

たとえば、

(Asita) wa watasitani no tanosii ensoku desu.

- (4) そのほか、この要項に同封の別紙「音読に際しての読みの態度観察表」の各項に該当する傾向の著しいものは、それぞれの該当欄に○印をつける。なお、長音符号の読み誤りは、「読み誤りが多い。」の項に記入する。
- (5) 所定の時間は(1)、(2)ともに2分ずつであるが、それぞれ2分以内に全文を読み終わった児童については、そのそれぞれの所要時間を別紙「音読に際しての読みの態度観察表」の備考欄に記入する。たとえば、1分30秒は1.30と書く。(この場合、1.5とは書かない。)

#### 4 実施

(番号順に1名ずつ児童をテストする室に呼び入れる。)

- (1) 「始め。」〔問題(1)だけを読ませる。〕

- (2) (2分たったら,)「やめ。」(所定の時間はあらかじめ児童に知らせない。)
- (3) 問題 (1)について所要事項を整理・記入する。
- (4) 「始め。」[問題 (2)を読ませる。]
- (5) (2分たったら,)「やめ。」(所定の時間はあらかじめ児童に知らせない。)
- (6) 問題 (2)について所要事項を整理・記入する。
- (7) これでテストは終わりました。控え室にはいってはいけません。
- (他の室で自習させるなり、運動場で運動させるなり、適宜の処置をとる。)

別紙

音読に際しての読みの態度観察表

学校名 \_\_\_\_\_  
 調査者氏名 \_\_\_\_\_  
 実施年月日 \_\_\_\_\_

児童 番号 氏名	(1)					備 考	(2)					備 考
	a	b	c	d	e		a	b	c	d	e	
	音節ごとの読み	語句ごとの読み	符号を無視して読む	読み間違いがかなり多い	調子で読む。内容にそぐわない		音節ごとの読み	語句ごとの読み	符号を無視して読む	読み間違いがかなり多い	調子で読む。内容にそぐわない	
1												
2												
3												



[I] A B C 順

小学校	5 年 組	番号	名 ま え	男 — 女
-----	-------	----	-------------	-------------

(1) Sora niwa kazoe-kirenai hodo takusan no hosi ga arimasu.

Hosi no syurui o ôkiku wakeruto, “wakusei” to “kôsei” ni narimasu.

Wakusei wa kokonotu arimasu ga, taiyô ni tikai mono kara iuto, tugi no yôna zyun ni narimasu.

Kore o *abc*-zyun ni naru yôni hyô ni kaki-irenasai.

Kasiramozi dake de naku, kotoba zentai ga, *abc*-zyun ni naru yôni suru no desu.

susei	(1)
kinsei	(2)
tikyû	(3)
kasei	(4)
mokusei	(5)
dosei	(6)
tennôsei	(7)
kaiôsei	(8)
meiôsei	(9)

(2) Tugi no yôni yattu no kotoba o *abc*-zyun ni narabemasi-  
ta. Kono naka e mô hitotu “meriyasu” to iu kotoba o  
iretai no desu ga, doko e iretara yoi desyô? Tadasii to  
omou tokoro no  no naka e kaki-irenasai.

meate

mebae

medaka

meityû

meiwaku

menseki

mesibe

mezamasi-dokei

〔Ⅱ〕 さしずに従 って書く	小学校	5年組	番号	名まえ	男 — 女
-------------------	-----	-----	----	-----	-------------

- (1) Tugi no iroiro no katati no naka de, tagai ni heikô site iru tyokusen ga aru mono ga arimasu.  
Sono katati no naka o enpitu de nurinasai.



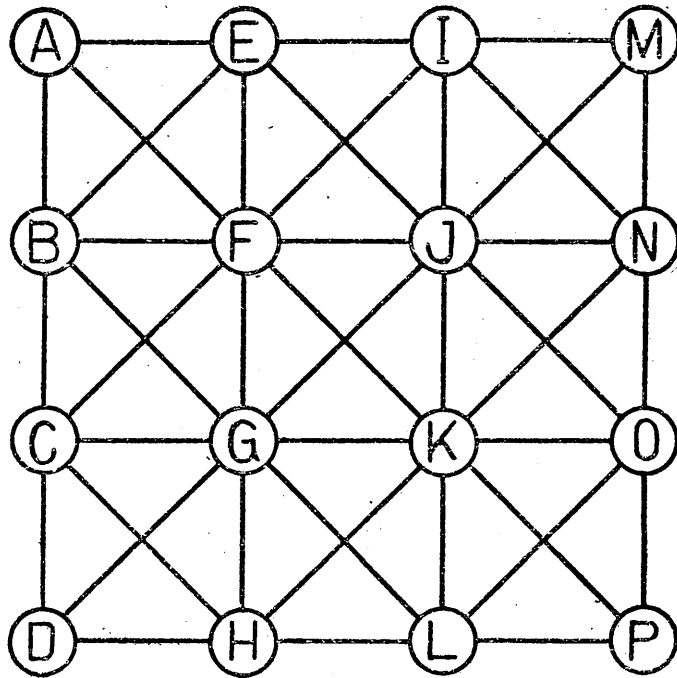
- (2) Mizu wa nando de kôri ni narimasu ka? Atte iru mono ni ○ o tukenasai.

200-do	30-do	50-do	500-do
10-do	100-do	0-do	1000-do

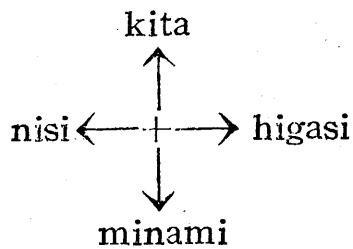
- (3) Sita no zu no ①, ②, ③ nado no sirusi no, tate to yoko no aida wa 5-mêtoru de, naname no aida wa oyoso 7-mêtoru arimasu.

Ima, Tarô Kun wa ① ni imasita ga, mazu minami e 5-mêtoru itte kara, higasi e 10-mêtoru iki, sore kara nisi-minami e 7-mêtoru iki, sarani higasi e 5-mêtoru itte tomarimasita.

Soko kara mite, ㊦ wa dono hōgaku ni ataru ka, sita ni kaite aru hōgaku no uti, atte iru mono o ( ) de kakominasai.



higasi  
higasi-minami  
nisi  
higasi-kita  
minami  
nisi-minami  
kita  
nisi-kita



〔Ⅲ〕 黙 読
---------

(もんだい)

小学校	5年 組	番号	名 まえ	男 — 女
-----	------	----	---------	-------------

## Ki no Sita no Takara

(1) Oziisan wa tabako ga suki de, itu mo yoku hi no ataru engawa de pukari pukari to tabako o hukasite imasita. Engawa no mae niwa 1-pon no hurui ôkina kasi no ki ga atte, oziisan wa sono kasi no ki o nagamenagara tabako o hukasite imasita.

Sate, aru hi no koto desu. Oziisan wa inemuri o site ite' husigina yume o mita no desu. Doko kara kita no ka, hitori no kodomo ga yatte kite, sono kasi no ki no sita no tuti o sikiri ni horikaesite imasita.

Ana o hori-owaruto, kodomo wa doko kara motte kita no ka, iroirona omotya o sono ana ni iremasita.

Sosite, ana no ue ni 1-mai no ita de huta o site, sore ni tuti o kabusete simaimasita. Tuti o kabuseruto, kodomo wa, tiisana huda o tatete, "Kono ki no sita ni takara ga aru," to kaki-tukemasita.

Oziisan wa husigi de narimasen.

Yume no naka demo hazuresôna megane o kakenaosite, "Kono ki no sita ni takara ga aru," to mô 1-do yomimasita.

Sono hyôsi ni ha' to me ga samete simaimasita. Me ga samete mireba, kasi no ki niwa nan no kawari mo arimasen.

(2) Tokoro ga tugi no hi no koto desu. Oziisan wa engawa de tabako o sutte imasita ga, kokuri to itu no ma ni ka mata inemuri ga hazimarimasita.

Inemuri ga hazimaruto, kinô no yume no tuzuki ga dete

kimasita. Kodomo ga sono ki no sita kara ita o osi-agete dete kita no desita. Kodomo wa take-tonbo o motte imasita. Massaoni hare-agatta sora ni mukete, sore o tobasete wa asonde imasita. Take-tonbo wa marude hanabi no yôni syû' to sora e mukatte nobotte ikimasita.

Nobotta to omouto kurukuru to mawatte otite kimasita. Otite kuruto kodomo wa soko ni kakete itte wa, mata sugu sora e mukatte tobaseru no desita. Sore o kurikaesite iru uti ni, otite kita take-tonbo o miusinatte, urouro to ki no mawari o sagasi-hazimemasita.

Asimoto ni otite iru noni, dô site mitukerarenai no desyô. Ima nimo asi de humisô na no desu. Oziisan wa zirettaku natte, "Soko, soko, soko da yô!" to iô to suruto, oya, mô me ga samete simaimasita. Kodomo nanka doko nimo imasen.

(3) Sono tugi no hi, oziisan wa mata yume o mite imasita. Onazi kodomo ga dete kita no desu ga, kodomo wa bôsi o kabutte imasita. Birôdo de dekita toriutibô desu. Kodomo wa te ni tiisai yumi to ya o motte imasita.

Ryôhô tomo zibun de tukutta somatuna mono de, ya no saki niwa kugi ga sasikonde arimasita. Kodomo wa yumi o hiki-sibori, zi' to nerai o sadamete imasita.

Sono kodomo no ya no multe iru tokoro niwa huruboketa koya ga atte, sono koya no iriguti no mae ni 1-piki no itati ga imasita. Itati wa ima nigeyô ka nigeyô ka to suki o neratte, kodomo no hô o mite kyotokyoto site imasita. Soko e hyûn to ya ga tonde kimasita. Keredomo sono toki niwa, mô itati wa tyorotyoro to koya no usiro e kakekonde simaimasita. Kakekonda to omouto, itati wa kodomo o baka ni site iru no desyô ka, kyotokyoto sita kao de, koya no kage

kara nozoite imasita.

Kodomo wa kore o miruto, mô 1-pon no ya o tori-dasi, yumi ni tugaete hiki-siborimasita. Oziisan wa kore o miruto, omowazu nikkori simasita.

Datte, kodomo no yôsu ga oziisan no tiisai toki to sokkuri datta kara desu.

Sore de, tui, "Yatteru nâ!" to itte simaimasita. Sono hazumi ni me ga samete simaimasita.

(4) Mata sono tugi no hi no yume dewa, sono kodomo wa yahari toriutibô o kabutte dete kimasita ga, sugu ni koya no kage ni kakekonde simaimasita. Mamonaku sono kage kara takai takeuma ni notte pyokori pyokori to yatte kimasita. Sono ato kara kodomo no tomodati rasii no ga 10-nin gurai mo retu o tukutte yatte kimasita.

Sentô no kodomo wa kasi no ki no tokoro made kuruto, soko o hitomawari site, koya no usiro e hikikaesimasita.

Suruto, ato ni tuzuite ita kodomotati mo minna kasi no ki o mawatte, koya no usiro e kakurete simaimasita.

Minna ga haitte simauto, mata ano kodomo ga saki ni tatte dete kimasita. Minna yukaisôni nikoniko sita ka o site imasu.

Sosite, nando mo detari haittari site imasita. Kore o mite, oziisan wa hazimete wakatta rasikû, "Un, sô ka," to iimasita.

Sore de yume wa samete simaimasita. Sametemo oziisan wa, "Naruhodo, sô datta no ka!" to samo kansin sita yôni, kurikaesite itte imasita. Soko e tyôdo Masao ga yatte kite, "Oziisan, nani o itte iru no?" to kikimasita.

(5) "Un, mâ okiki. Oziisan wa kono aida kara yume o mite

ne, sono yume ni itu mo kodomo ga dete kuru no da.

“Ano ki no sita kara dete kite sa, ana o hottari, take-tonbo o tobasetari, takeuma ni notte aruitari, . . . .

“Kore wa yume na no da ga, mata hontô no koto demo aru no da. Oziisan no inaka no uti nimo tyôdo yume ni dete kita tôri no hurui ôkina kasi no ki ga atte ne, sono ki no sita ni oziisan wa tiisai koro yappari ana o hotta no sa. Sosite sono ana no naka ni iroiro no mono o umeta no da, ôkiku natte kara hori-dasô to omotte ne. Tokoro ga sore kara mô 40-nen izyô mo tatte simatta. Sono koto o oziisan wa ima made sukkari wasurete simatte ita.

“Sore ga ima goro ni natte, sono ana kara iroiro no mono ga dete kuru no da. Ima koso oziisan wa konna oziisan ni natte simatta ga, ana no naka kara dete kuru oziisan wa tyôdo Masao gurai na no da yo. Sosite iroiro no koto o site asobu no da. Yumi de itati o neratte mitari, take-tonbo o sora e tobasete mitari, . . . . Inaka e ittara, nan da ka, sonna oziisan ga mada asonde iru yôna ki ga suru yo.”

“Itte mireba ii zya nai ka!” Sore made damatte kiite ita Masao ga ôkina koe de iimasita. “Un, itte miyô.” “Hontô?” “Honto ni sa, oziisan mo kyûni ikitaku natte kita!” Kore o kiite, Masao wa donnani yorokonda koto desyô.

“Boku mo issyoni ne, ne,” to, Masao wa nando mo oziisan ni tanomimasita. Sore de oziisan wa kyûni omoi-tuite tiisai koro no zibun no uti o miru tame ni, mata yume ni mita ano kasi no nemoto o hotte miru tame ni, Masao o turete, 40-nen-buri ni inaka e mukatte tabi-datta no desita.



〔Ⅲ〕 読 誦 (しつもん)

小学校	5年 組	番 号	名 ま え	男
				女

つぎ  
次のしつもん<sup>こた</sup>に答えなさい。まえ<sup>ぶん おも だ</sup>によんだ文を思い出して、しつもん<sup>した か</sup>の下に書いてある<sup>いつ</sup>五つの答<sup>こたえ</sup>のうち、いちばん<sup>ただ</sup>正しいと<sup>おも</sup>思うもの<sup>ひと</sup>の一つに○をつけなさい。

(1) おじいさんは<sup>まいにち</sup>毎日いろいろなゆめをみましたが、いちばんはじめ<sup>ひ</sup>の日のゆめ<sup>なか</sup>の中<sup>で</sup>に出<sup>き</sup>て来<sup>な</sup>たこどもは何をしましたか。

- a 木<sup>き</sup>の下<sup>した</sup>をほって、いろいろなおもちゃをみつけた。
- b 木<sup>き</sup>の下<sup>した</sup>でひるねをして、おもしろいゆめをみた。
- c 木<sup>き</sup>の下<sup>した</sup>にあなをほって、たくさんのきんかをうめた。
- d 木<sup>き</sup>の下<sup>した</sup>をきれいにたがやして、たねをまいた。
- e 木<sup>き</sup>の下<sup>した</sup>にあなをほって、いろいろなおもちゃをうめた。

(2) 次の日<sup>つぎ ひ</sup>のゆめで、こどもは何<sup>なに</sup>をしてあそびましたか。

- a ひこうき
- b <sup>たけ</sup>竹とんぼ
- c たこあげ
- d <sup>はな</sup>花 <sup>び</sup>火
- e ボールなげ

(3) <sup>みつか</sup>三日めの日のゆめで、こどもは<sup>ゆみ</sup>弓と<sup>や</sup>矢をもってあそびましたが、  
そのとき<sup>なに</sup>何をねらったでしょうか。

- a きつね
- b とかげ
- c いたち
- d すずめ
- e むじな

(4) いちばんおしまいの日のゆめで、<sup>たけうま</sup>竹馬にのってあそんだこども  
は何人<sup>なんにん</sup>ぐらいいたと<sup>か</sup>書いてありましたか。

- a 3人<sup>にん</sup>ぐらい。
- c 15人<sup>にん</sup>ぐらい。
- c 5人<sup>にん</sup>ぐらい。
- d 10人<sup>にん</sup>ぐらい。
- e 20人<sup>にん</sup>ぐらい。

(5) 「行<sup>い</sup>ってみればいいじゃないか。」とまさおが言<sup>い</sup>った時<sup>とき</sup>、おじい  
さんは何<sup>なん</sup>と答<sup>こた</sup>えましたか。

- a だけど、と<sup>とお</sup>っても遠いんだよ。
- b うん、もっとあたたかくなったらね。
- c いま行<sup>い</sup>ってみたってだめよ。
- d うん、行<sup>い</sup>ってみよう。
- e そんなこと言<sup>い</sup>っても行けやしないよ。

[IV] 書くこと

小学校	5年組	番号	名まえ	男
				女

つぎ 次の  のところへ、その上にかいてあることばをローマ字でかき入れなさい。

わかちがきにもきをつけてかきなさい。

(1) がっこう きょう  
 Watasitati no  dewa

うんどうかい  
 ga arimasita.

みんなで つなひき  
 taisô ya

かけっこなどを  
 ya  simasita.

(2) けんいちくん ふみこさん  
 to  ga  
 otukai ni ikimasita.

とちゅう ゆうびんやさん  
 de ,

ぎゅうにゅうやさん しんぶんやさん  
,

ni deaimasita.

## 〔V〕 他の式のローマ字文 (1)

小学校	5年組	番号	名まえ	男 — 女
-----	-----	----	-----	-------------

“Odiisan no Tanzyôbi mo mô sugu desu ne. Kondo wa sitizyû no Oiwai desu kara, Okâsan ya Siduko ni unto Gotisô wo tukutte moraimasyô,” to Otôsan ga ossyaimasita.

“Hatidyôzima no Odisan mo irassyaruto ii noni nê!” to watakusi ga iimasuto, Okâsan wa Amimono no Te wo yasumete, “Sâ ne, Odisan wa Bokudyô no Osigoto ga itu mo oisogasii kara, irassyarenai ka mo siremasen yo,” to ossyaimasita.

“Mituo mo, kono goro wa Radio de Hôsô wo sitari site, nakanaka kwatuyaku site iru kara nâ,” to Odiisan mo nikoniko sinagara ossyaimasita.

Sono toki Genkwan no hô de “Hudita San, Denpô.” to iu Koe ga simasita. Watakusi wa isoide Genkwan ni dete miruto Denpô-haitatu ga Zitensya kara orite tatte imasita.

“Gokurôsama,” to itte, watakusi ga Denpô wo uke-toruto, sugu mata Zitensya ni notte hasitte ikimasita.

## 〔V〕 他の式のローマ字文 (2)

Fushigina rampu ga arimashita. Aoi kasa ga kakatte imashita.

“Kono rampu o tsukeruto kitto kawatta koto ga aru yo,” to itte, sono uchi dewa, kore o tsukeru koto o osoroshigatte imashita.

“Sonna bakana hanashi ga aru mono ka! Kono bummei no yononaka ni bakemono ya akuma nado no iyô hazu ga nai. Mukashi no hito wa ironna koto o itte, hima o tsubushita mono da. Sore ga uso nara, aoi rampu o dashite tsukete miyô ja nai ka,” to ki-awaseta hitotachi wa kuchi o soroete iimashita node, hajime wa hantai o shita sono uchi no hitotachi mo dô nimo shikata ga naku, sansei o suru koto ni shimashita.

Minna wa, hi no kureru no o matte imashita. Soshite, shimatte atta mukashi no rampu o dashite kimashita. Miruto furui sekiyu no shimi ya hokori ga rampu no garasu ni tsuite imashita.